NIPPON GOOD PARTS NGP News

全国整備工場の皆様へ
NGP組合員200拠点がお届けする
お役立ち情報

2019 No.338 5月号

2019年5月19日発行
■発行責任者／佐藤幸雄 ■編集・制作／(株)プロトリオス
■発行／(株)NGP 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F TEL03(5475)1200

定価／1部30円

日整連、平成30年度版「自動車整備白書」を発行

3年連続で事業場数が減少し、5年ぶりに92,000事業場を下回る

日本自動車整備振興会連合会はこのほど、「自動車整備白書」の平成30年（2018年）度版を発行しました。同書は2018年6月末時点における、全自動車分解整備事業者を対象として調査した結果をまとめたものです。同書から、業態別の事業場数や売上高の推移について紹介します。

事業場数の推移を示した**グラフ1**を見ると全事業場数の合計は3年連続で減少し、対前年度比118事業場（0.1％）減の91,883事業場となり、5年ぶりに92,000事業場を下回りました。業態別では兼業が対前年度比391事業場（2.6％）増の15,723事業場、ディーラーが同72事業場（0.4％）増の16,252事業場、自家が同17事業場（0.5％）増の3,638事業場となった一方、専業は同598事業場（1.1％）減少し56,270事業場でした。

大きく減少した専業では、事業継承問題や人材確保難など「人」に起因する廃業が増加しているようです。一方ディーラーは3年ぶりの増加となり、工場の統廃合による事業合理化を進める動きが一段落したと考えられます。

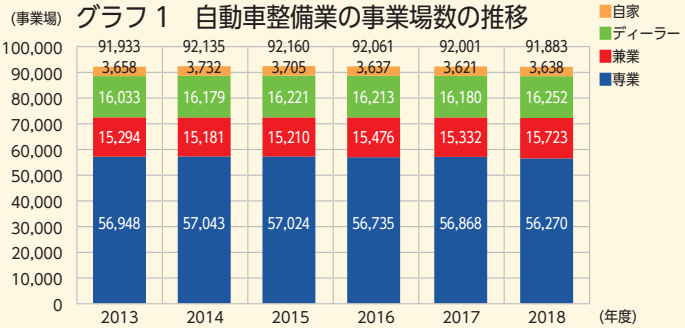
総整備売上高（**グラフ2**）は5兆5,295億円で、前年度と比べると420億円（0.8％）の増加となりました。業態別では、兼業が同102億円（1.5％）増の6,713億円、ディーラーが同780億円（3.0％）増の2兆6,927億円、自家が同121億円（5.6％）増の2,291億円となった一方、専業は事業場数の減少が影響し同583億円（2.9％）減の19,364億円でした。

同書は2018年6月時点の調査結果に基づくため、総整備売上高は2017年度の経済・経営環境に依存しています。2017年度は好調な景気基調にあった中でユーザーの消費意欲が喚起され、定期点検整備や整備入庫時の付帯サービス、その他整備の需要が増加し、総整備売上高の増加につながったようです。しかし、事故整備では依然として減少傾向が継続しており、前年度比412億円（3.7％）減の1兆783億円となりました。

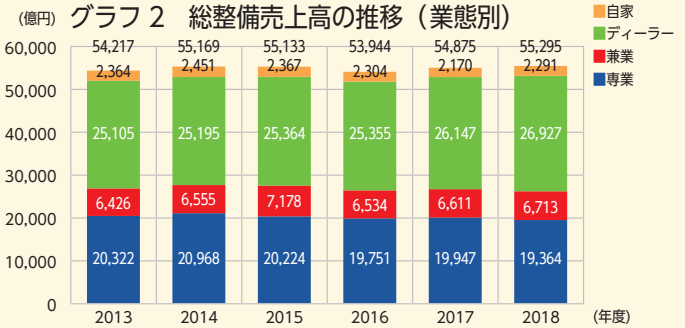
事故整備売上高を業態別に見ると、自家のみ対前年度比3億円（0.7％）増の454億円と微増でしたが、その他業種では専業が同78億円（1.9％）減の3,931億円、兼業が同93億円（6.8％）減の1,282億円、ディーラーが同244億円（4.6％）減の5,116億円といずれも減少していました。また、1事業場当たりの事故整備年間入庫台数では、兼業が同1.5％増、専業が同1.0％減、ディーラーが同18.7％減となりました。

ディーラーの入庫台数が大きく減少した理由は、自動車保険等級制度の改定が一般に広く認知されたことで、自費による軽度な修理は専・兼業へ、保険を使用する重度な修理はディーラーへ入庫する傾向が強まったためと考えられます。そのためディーラーでは高額な保険修理の比率が上昇し、事故整備の平均単価が上昇傾向にあるようです。

グラフ1　自動車整備業の事業場数の推移



グラフ2　総整備売上高の推移（業態別）



オートモビルカウンシル2019開催

Topics

往年の名車、最新モデルが幕張メッセに集結

「クラシックミーツモダン」をテーマに、往年の名車と最新モデルを展示する「オートモビルカウンシル2019」が4月5～7日の3日間、幕張メッセ（千葉県千葉市）で開催されました。

国産カーメーカー6社、輸入車インポーター1社、ヘリテージカー（旧車）販売店が24社出展し、合計120台以上の車が展示されました。また、国産カーメーカーによる共同企画「百花繚乱80's」では80年代を彩った名車が数多く展示され、来場者を楽しませました。

来場者数は3日間合計で34,692人（前回30,484人）と回を重ねるごとに増えており、カーオーナーにおけるクラシックカーへの関心の高まりがうかがえるものとなりました。

主催者展示

1960～70年代のイタリアンスポーツカー、ランボルギーニ・ミウラ（写真）、マセラティ・ギブリ、フェラーリ365GTBの3台を展示

トヨタ自動車

百花繚乱80'sブースでは「MR2 AW11」（写真左）や「カリーナED」、「ソアラ MZ20」など4車種を紹介。トヨタブースでは、今年のデトロイトモーターショーでデビューした新型A90と1986年に発表されたMA70型（写真）の新旧「スープラ」が展示された

本田技研工業

「Honda ものづくり一継承されるM・M思想～生活を豊かにする“人中心”のコンセプト～」をテーマに、1981年発売の初代CITY（写真）などを展示

マツダ

「ロードスター ～30年の物語、そして今～」をテーマにアピール。ロードスターの歴史を振り返るとともに、プロトタイプ（写真左）、初代、10周年記念車、20周年記念車などの歴代車の展示のほか、日本初公開となる30周年記念車（写真右）や30年前のシカゴオートショーへ出品されたコンセプトカーなどを紹介

日産自動車

1969年に発売された「GT-R」と「フェアレディ Z」が50周年を迎えたことを記念して、「フェアレディ Z-L S30型」（写真）などを展示

ヤナセ／ヤナセクラシックカーセンター

初出展のヤナセは、吉田茂元首相が所有していた「300SEラング」（写真左）、1950年～90年代にかけて発売された「SL」シリーズ（写真右は560SL）や、日本初のフォルクスワーゲンの輸入車である「タイプ1」など9台を展示。今回の出展を機に、クラシックカー好きが集まる会場での意見を今後の参考にするとともに、クラシックカーの普及に努める考え

国交省、可搬式「ナンバー自動読取装置」を用いた街頭検査の実施結果を公表

国土交通省はこのほど、可搬式「ナンバー自動読取装置」を用いた街頭検査の実施結果を公表しました。結果は表の通りです。

国交省は今後も同装置を活用した該当検査の実施回数を増加させるなど、さらに取り組みを強化していく方針です。

可搬式「ナンバー自動読取装置」を用いた街頭検査の実施結果

実施時期	2018年9月～2019年3月
実施場所	35都道府県
実施回数	46回（43ヵ所）
読取台数	37,403台
捕捉台数	43台
車検切れ運行率	0.11%

自工会、2019年度需要見通しを発表

日本自動車工業会（自工会）はこのほど、「2019年度四輪車国内需要見通し」を発表しました。

それによると、2019年度の四輪車総需要は5,223千台と見込まれています。その内訳は、登録車が3,351千台、軽四輪車が1,872千台です。

自工会は、登録車では「景気拡大傾向が緩まり需要が押し下げられるものの、自動車税の恒久減税、取得税に代わって導入される自動車税環境性能割の軽減措置が下支えとなる」、軽四輪車については「景気拡大傾向が緩まり需要は押し下げられるものの、軽自動車税環境性能割の軽減措置等により、若干の減少にとどまる」と、本見通しの理由を示しています。

2019年度四輪車国内需要見通し　(台)

乗用車	普通・小型四輪車	2,910,000
	軽四輪車	1,458,000
	小計	4,368,000
トラック	普通車	176,000
	小型四輪車	252,000
	軽四輪車	414,000
	小計	842,000
バス		13,400
合計		5,223,400
登録車		3,351,400
軽四輪車		1,872,000

NGP 今月のCO_2削減量

リユース部品利用に伴うCO_2削減量

平成31年3月：**2,624t**

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含むと115品目）を対象に算出した数値です。

リターナブル梱包材利用に伴うCO_2削減量

平成31年3月：**2.4t**

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO_2排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

「NGP春の選べるダブルキャンペーン」開催中!!

「NGPキャンペーン」の第5弾、「NGP春の選べるダブルキャンペーン」を、只今絶賛開催中です。キャンペーン期間は4月1日～6月30日までの3ヵ月間です。

NGPリサイクル部品に添付されるギャランティシールを3枚集め、応募用はがきに貼り付けて応募いただくと、抽選で合計250名の方にA賞「サマージャンボ宝くじ」かB賞「Amazonギフト券」のいずれかご希望の賞品をプレゼント致します。

応募用紙は各NGP組合員より皆様に配布するほか、当組合Webサイト（http://www.ngp.gr.jp/）からダウンロードが可能です。

皆様からのご応募を、心よりお待ちしております。

NGP組合員 かわら版

第31回基礎研修会開催
NGPの一員としての基礎を学ぶ

NGP協同組合は4月14～16日の3日間、BumB（ぶんぶ）東京スポーツ文化館（東京都江東区）で第31回基礎研修会を開催し、NGP組合員各社の新入社員を含む総勢69名が受講しました。

初日の開会式で登壇した小林信夫副理事長は、「木はその根がしっかりしていなければ、少しのことで倒れてしまいます。何事においても基礎が重要です。皆さんには3日間、しっかりとNGPの基礎を学んでいただきたい。研修で学んだことが皆さんを強くし、皆さんが強くなれば会社が強くなり、組合員企業が強くなればNGPが強くなります。NGP、そして業界を盛り上げていくという思いを持って受講してください」と、受講生を激励しました。

研修では挨拶訓練や団体行動を通じ、NGPの一員として必要な考え方を学び、その基本理念に対する理解を深めました。

修了式では、(有)西川商会の鹿田和樹さんが「今後、初級、中級、経営者研修を受講し、NGPと会社の発展に寄与します」と決意を表明しました。

研修終了後の感想として(株)アシストフクダの柳原潤己さんは「班の皆が一丸となって合格を目指し、最後まで取り組むことができた体験は、必ず今後の助けになると思いました。この3日間は私に、諦めずに頭を使い、息を合わせて取り組むことで、何事もきっと乗り越えることができる、という自信をつけてくれました」と、諦めずに皆と協力して取り組むことの大切さを実感しています。

挨拶する小林信夫副理事長

挨拶訓練を通じ、全員で気持ちと行動を“合わせる”ことの難しさと重要性を学ぶ

平成30年度NGP提携リビルトメーカー合同会議を開催
リビルトパーツのさらなる有効活用を目指す

NGP協同組合は4月18日、AP品川（東京都港区）にてNGP提携リビルトメーカー合同会議を開催しました。

冒頭の挨拶で佐藤幸雄理事長は、日ごろのNGPの活動への支援に感謝の意を表した上で、「我々を取り巻く環境は年々厳しさを増しており、それは受注件数にも表れています。このような状況下だからこそ、提携リビルトメーカーにご協力をいただき、より一層の連携強化を図ることが重要だと考えています」と、参加者に向けて積極的な意見交換を呼びかけました。

会議では、①各種販売実績データ、②合同キャンペーン結果、③クレーム対応・改善点、④RP業界全般の動向、⑤物流の現状、⑥補償内容などについて話し合われました。

またNGPからは、提携リビルトメーカー各社の会社案内を取りまとめ、冊子にする提案が示されました。作成した冊子はNGP組合員企業へ配布し、提携リビルトメーカー各社における取り扱い部品の概要や強みなどを周知することで、リビルト部品のさらなる活用に活かしていく予定です。

挨拶する
佐藤幸雄理事長

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局
〒108-0074　東京都港区高輪3丁目25番33号　長田ビル2F
TEL:03-5475-1208　FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp/

株式会社NGP
〒108-0074　東京都港区高輪3丁目25番33号　長田ビル2F
TEL:03-5475-1200　FAX:03-5475-1201
http://www.ngp.co.jp/